

詰所テレビでのDVD 放映に喝！

乗務員の皆さん！年末年始輸送大変ご苦労様でした。
乗務員の皆さんが、一生懸命年末年始輸送に従事している最中、突然各運輸所の詰所のテレビに「過去の鉄道事故のDVD」が、一方的に放映されるようになりました。
大阪の運輸所と東京第二運輸所は、時間が制限されての放映です。

一方、東京第一運輸所の自所、他所両詰所には日勤時間帯の9時30分から17時までエンドレスで放映されていて、しかも、チャンネルを切り替える術のリモコンも取り上げられていて、休憩しているほとんどの乗務員から「何で一方的に見せられるんだ」「見せるなら訓練の時に見せればいい」「まるで宗教のようだ」「マインドコントロールされている気になる」「上から目線での押しつけだ」「ラグビーや高校サッカー、箱根駅伝など楽しみにしていたのに見られない」「DVDに時刻が出ているので点呼の時間を間違えそうになる」・・・など苦情が続出しています。

特に、車掌トンゴで4～5時間段落ち（労働外時間）がある乗務員は、元旦早々から、仕事のため自宅でゆっくり正月番組が見られないかわりに、次の乗務までの間、せめて職場のテレビでも見て癒やされ、リフレッシュしようとしている、まさにその時間帯にまるまる、エンドレスで会社が指定したDVDを見せつけられている状態です。

そのことに対して、東海労役員が、東京第一運輸所の当直にDVDを止めるように申し出たり、新幹線鉄道事業本部に「DVDを1日中流すのは止めるように」と言いましたが、当本部は「職場が決める事で問題ない」との返答で、「労働外時間で強制で見せるのはおかしい、休養できない、音を消してもよいか」と抗議しました。また、関西支社へも抗議しましたが、関西支社のコメントは「他の部所の事」との返答で、「大阪の乗務員に関することであるから、新幹線鉄道事業本部に申し出るように」と抗議してきました。

また、東京第一運輸所の石橋科長にも尋ねると、「テレビを見に来てるわけではないだろう」「ずっと流して事故防止の効果はある」との返答で、まさに「上から目線での押しつけ」で事故防止が出来るという感覚に陥っているところが、ほんとうの意味から「事故防止、職場環境、乗務員の気持ち」が全く理解できていない証しです。

ちなみに、国労の役員が「DVD流し放し」の現状を大阪第二運輸所の当直に言うと、当直は「それは酷い」と言っていたそうです。

ある東海労組合員が、あるユニオン役員（大阪第一運輸所所属）に対して、その現状に対して「何か言わないの？」と聞くと「言ってもいっしょや」（言ってもいないのに）という返答でした。

職場の9割以上の社員をまとめ、当該ユニオン組合員から苦情が上がっているのに、ユニオン役員は、組合員のことなど我関せず、自分のことだけで必死な状態でした。

今回、問題にしているDVDは、是非とも、訓練の時間に、説明も入れながら、丁寧に解説し事故防止に役立てるべきではないのでしょうか！？

休憩時間での放映は直ちに中止せよ！